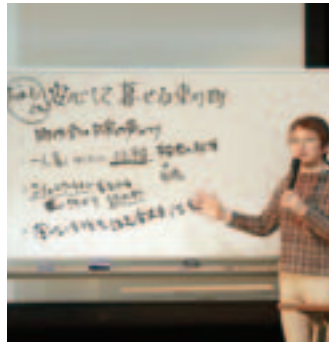


や行政職員が来訪し、東川町の地方創生に関する取り組みに感銘を受けたことから招待されました。若者たちとの座談会の後、一般参加のフォーラムにて、松岡町長と磯田代表が講演。パネルディスカッションも行われました。



台湾最大の都市にして人口400万人の新北市と、人口83000人の小さな東川町が今回をきっかけに手を取り合い、写真文化を切り口にした青少年の交流など、両地域の特徴を生かした様々な交流が広がることを期待されます。

支え合える地域に「社会福祉大会」
昨年11月23日、改善センターにて第42回東川町社会福祉大会が行われました。表彰状・感謝状贈呈の後、町内の小中高校、旭川福祉専門学校、7人が福祉作文を発表。後半は保健師などとして長く活躍している山形千都子氏による講



演。「認知症とうまく付き合うには、その人が何に困っているか理解することが大切」とした上で、そのための好事例が「ひとあじちがう料理店」と紹介。その仕掛け人の一人である町社協の遠藤氏は、「認知症や要介護認定者と子どもが一緒に参加することで、子どもの家族や地域の人も認知症に対する理解が深まった」といいます。料理店で働く人の夫が「いつも妻の怒った顔しか見ていなかった。料理店ではあんな顔するんだな。俺、なんかわかった気がする」と、優しい言葉がけをするようになったことで夫婦仲も良くなった事例や、「自分が仕事で失敗して落ち込んだ時、子どもが『大丈夫だよ。だからひとあじちがう料理店やってるんですよ』と言ってくれ、子どもが『失敗してもまた次があるし、それを認めてくれる懐の広い町になるために料理店をしている』ことを理解していて良かった。子どもが成長した時に支え

合える、もっと懐の広い東川町になってほしい」と語りました。山形氏は「誰かがやってくれるのでは地域は変わらない。大切なことは続けること。一人が大役を担うのではなく、皆が得意なこと、得意な役割をすれば良い」「認知症は家族だけで介護するつもりで、世間の偏見や差別を減らして、第三者なら冷静な対応ができるので、地域での支え合いが大切」と締めくくりました。

東海大と包括連携協定 教育や産業界で協力



昨年11月29日、東川町と東海大学（東京都、山田清志学長）は包括連携協定を締結しました。町が国内の大学と同協定を結ぶのは初となります。

山田学長は「今回の協定は大学にとって特別。東海大はQOL（人生の質）を感じ、広めていける人材を育成することとしているが、学生にはなかなかピンとこ

スタ研通信

昨年、10月に東川スタイル研究員に就任し、東川町でのさまざまな活動に参加しました。毎月2回ほど行われている写真少年団の活動では、団員の子どもたちと写真を通じてコミュニケーションをとることで、東川町の魅力を改めて考えるきっかけとなりました。自然、そして人が豊かな東川町でたくましく生きる子どもたちの力強さに励まされました。また、10月の「ひがしかわ株主総会」や「新米×カレーフェス」、そして11月の「東川アウトドアフェスティバル2019」や「椎名豊 Special Trio 2019」など、さま



ざままちのイベントにも参加させていただき、町民の方々や新たな出会いがあったことも印象的でした。そんな東川町は、私にとって、まさに「出会い」のまちだと感じます。人との出会い、自然との出会い、食との出会いなど、東川町へ行くたびに、そこにはまだ私たちが知らない豊かな出会いが眠っているのだと実感します。たくさんのお会いに感謝しながら、今年も、まだ見ぬ出会いの扉を一つまた一つと開け、大きな花を東川の地に咲かせられるよう精進して参ります。

東川スタイル研究員 中川梨花

い。恵まれた東川町という空間ならば体感できるはず。卒業後にそれぞれのコミュニティ、家庭、企業で人生の豊かさを享受できる人材になってもらいたい」と挨拶。松岡町長は「地方創生には様々な分野との連携が必要。高名な東海大学との連携は誇りである。学生が東川町での小さな出会いを通じて刺激を受けて成長し、世界で活躍する人材になる一役を担うことができれば嬉しい。日本が家具

デザイン分野でヨーロッパを回る時代を作るといふ大きな夢を「持てる」と期待を示しました。今後は芸術系・デザイン系の学生が東川に滞在し、織田コレクションなどを活用した学びの場を設けることなどを検討しています。

東京で町の特産品や魅力をPR

昨年11月30日と翌12月1日、東京国際フォーラムで行われた「町イチ！村イチ！2019」に東川

町が展覧しました。全国の美味いものが1度に入手できるとあって、会場内は身動きも難しいほどの人と熱気であふれていました。（来場者5万3千人）

有楽町駅前広場の野外ブースでは、東川町産ゆめびりか、大雪旭岳源水、ドリップコーヒー、トマトジュース、オリジナルトートバックなどを販売しながら東川株主制度（ふるさと納税）もPR。東川町産ゆめびりか使用のお菓子「味しらべ」は特に好評で1日目に完売。知名度の高い東川米ゆめびりかも売りました。東川町に住んでいた方や日本語学校の元留学生など、東川にゆかりのある方にも多数来場いただきました。



いた方も多かったようです。これをきっかけに、実際に町に足を運ぶ方が増えることでしょうか。

段差あっても心はバリアフリーに 障がい理解促進講座



昨年12月3日、道草館にてNPOころりんく東川主催の「ヒガシワケルマイルス マチアルキ」が行われました。町内の事業者など約30人が、車いすユーザーのNPO法人カムイ大雪バリアフリー研究所（旭川市）の五十嵐真幸氏、CILEピタ（同市）代表の佐藤祐祐氏（町内在住）が実際に東川神社やせんとびゅあ、町内飲食店などを散策する動画を視聴。

3グループに分かれての意見交換では、「建物外観の写真が意外と少ない。階段の段数や、通路の狭さなどの情報が欲しい」「スロープがあればベビーカーや高齢者も行きやすくなるのでは」など意見が交わされました。階段の昇降介助体験では、十分

な幅に思えた道草館の階段でも、4人で車いすをかかえた状態と意外とギリギリでした。普段とは違う視点で「みんなにやさしい町になるにはどうしたら良いか」を考える機会になりました。

もちつき体験 留学生も一緒に



昨年12月15日、中央自治振興会がもちつき体験会を行いました。町立日本語学校の留学生21人を含む約60人が改善センターに集合。留学生を招くのは今回が初です。

各種大会成績

【サッカー】
◆第21回三野スポーツ杯フットサル大会（昨年12月7日・上富良野町社会教育総合センター）
▼〔2位〕東川中学校サッカー部



【バレーボール】
◆令和元年度中学生バレーボールあいつ大会（昨年12月8日・愛別町B&G海洋センター）
▼〔優勝〕東川中学校バレーボール部
◆第8回バレーボール少年団ひがしかわ大会（昨年12月7日・東川小学校体育館）
▼〔3位〕ひがしかわジュニア（東川バレーボール少年団）

◆令和元年度 会長杯兼モルテン杯大会（昨年11月30日・東川小学校体育館）
▼〔3位〕ひがしかわジュニア（東川バレーボール少年団）



地元ペテランのように杵を下ストとは振るえませんが、笑顔でべったん！日本文化を楽しく体験しました。3つの臼を使い、アツアツのもち米を白↓赤（紅ショウガ入り）↓豆餅↓あん用↓雑煮用の順にそれぞれ5回ずつついた後は、みんなで雑煮を食す。手作りのお餅は格別でした。

大雪野球少年団員、北海道選抜メンバーとして全国へ

昨年12月9日、大雪野球少年団に所属する杉浦瑛哉さん（東小6年）と大岩侑真さん（同）が、11月に歌志内市で行われた北海道選抜セレクションで全国大会出場メンバーに選ばれたことを松岡市町長らに報告しました。

杉浦さんは第16回西日本選抜学童軟式野球倉敷大会（岡山県、12月14日・15日）に参戦。同少年団



▲左が大岩さん、右が杉浦さん。

では一番足の早い左バッターで、本塁生還率が高く、守備範囲の広さも魅力の選手です。大岩さんは第17回今泉杯西日本友好学童軟式野球大会（佐賀県、12月21日・22日）に参戦。器用さが売りのピッチャー・内野手で、強肩と正確なスローイングでアウトを積み重ねる選手です。

これらの大会用の赤いユニフォームに身を包む2人に、松岡町長は「北海道代表として頑張ってください」とエールを送りました。